

天嶮の交通設備として

旅客用架空索道の利用一例

飛行機で旅客を運搬する時代になつて、架空索道で旅客を運搬するに何等の不安を感じない、然し機械的な常識に缺けてをる我國人は架空索道に永い間の不安を感じてをつたのであるから、今日初めて旅客用の架空索道が出来た事は足もとから鳥がたつ様に感じてをる。

従來架空索道は水力電氣の工事用として、又は鐵山、山林等の材料運搬設備としてのみ施設され

たが道路交通上の旅客用としては恐らく之が最初の施設である。

自動車道の連絡以外に旅客用としても索道がもつと々々々利用されわはならぬ。今日の架空索道なるものが設計にも工事にも如何に完全なるものに發達してをるかを示す爲めに、本號に最近の一實例を示して次に最近發達せる索道のセオリーを通俗に紹介したいと思ふ。(編者)

紀伊自動車會社の 荷客索道連絡 工事成る

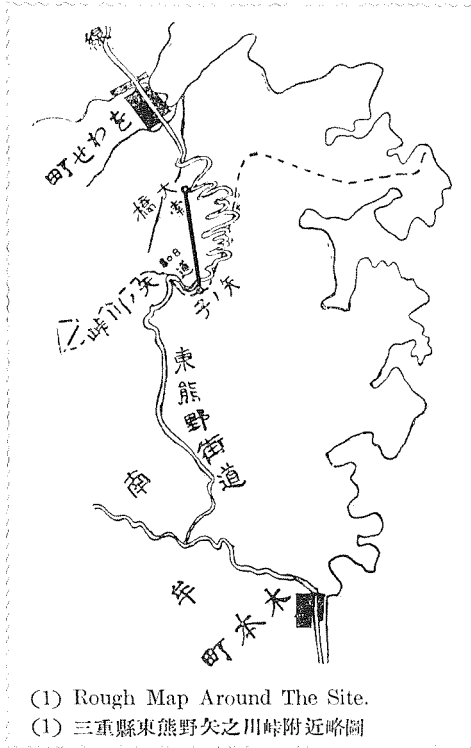
紀州東熊野街道には、最近十年間、三重縣に於て多大なる資を投じて道路を改築し、畏くも皇祖御上陸の地點たる熊野浦新宮を経て、和歌山海岸路線と連絡するのであるが北牟婁郡尾鷲町より南牟婁郡木ノ本町に至る十里の間に起伏する魔梁嶺峠の天嶮には、人智を傾けても車行は困難であつた昭和二年五月二十九日紀伊自動車會社は荷客連絡の索道工事を完成して、遂に此の天嶮を開拓したのである。

今や各地競ふて 調査に着手す

魔梁溪谷より標高二千五百呎の矢之子嶺に至る曲折五十餘、急坂四十五丁

Modern Short-Cut Over Deep Valley. The Passenger Cable-Way. In Miye Prefecture.

三重縣熊野街道矢之子嶺に架設したる我國最初の架空旅客索道



(1) Rough Map Around The Site.
(1) 三重縣東熊野矢之子嶺附近略圖

を、座席に腰掛け窓外の奇勝を一時裡に眺めながら、僅々十五分にして峠を超へ、自動車に連絡、木ノ本を経て青松白砂の右馬松原海岸道路を快走して新宮町に達する時間は僅かに三時間餘である。故に名古屋或は大坂方面より熊野本宮、那智參詣、瀨遊行寺の客は頗る増大し索道連絡は果然好成績を収むるに至り、各地方に於ても續々調査に着手して居る。

旅客連絡用索道 要綱

1. 工費 五萬圓 用地費 地均
工事小屋、基礎工事、鐵塔及建設費、停車場諸機械及裝置、ロープ其他一切を含む
2. 程長 四千呎
3. 高差 千八百呎
4. 方式 單線循環式